

会社概要

－株式会社 拓水－

| | |
|------|--|
| 代表者 | 代表取締役 尾崎健一 |
| 本社 | 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 3-6-23-708 / 電話 092-406-3217 |
| 設立 | 1996年4月 |
| 資本金 | 2700万円 |
| 事業所 | 五島事業場（長崎）/ 周防大島事業場（山口）/ 種子島事業場（鹿児島） 浜崎クルマエビセンター（佐賀）/ 伊万里クルマエビセンター（佐賀） |
| 事業内容 | 車海老の生産・販売・加工・海老養殖を中心とした研究開発事業 |

会社沿革

| | |
|-------|--|
| 1996年 | 株式会社 オザキより、車海老養殖チームを分社化させ株式会社拓水として発足 同時に福岡本社並びに五島事業場（長崎県）を開業 |
| 2006年 | 浜崎クルマエビセンター（佐賀県）と業務提携を開始 姫島車えび養殖（大分県）と業務提携を開始 |
| 2009年 | 周防大島事業場（山口県）を開業 |
| 2010年 | 周防大島事業場に2枚貝生産チームの発足 |
| 2011年 | （独）水産総合研究センターと共同研究を開始 |
| 2012年 | 伊万里クルマエビセンター（佐賀県）と業務提携の開始 農林水産省より6次産業化企業に認定される 日本バイオ技研株式会社設立 |
| 2013年 | 沖縄栽培水産株式会社設立 |
| 2014年 | 種子島事業場（鹿児島県）を開業 |
| 2018年 | 台湾・成功大学と耐病性種苗開発についての共同研究を開始 |
| 2019年 | 福吉総合実験場にてバナメイ養殖を開始 |

提携会社

－株式会社 オザキ－

| | |
|------|---|
| 代表者 | 代表取締役 尾崎健一 |
| 本社 | 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 3-6-23-708 電話 092-406-3217 |
| 事業内容 | 貿易・水産飼料販売・水産物販売 国内外での水産養殖指導 |

－日本バイオ技研株式会社－

| | |
|------|--|
| 代表者 | 代表取締役 尾崎孝義 |
| 本社 | 〒812-0039 福岡市博多区冷泉町 2-9-1004 電話 092-292-4733 |
| 事業内容 | 水産物の増養殖・加工販売・ 関連事業調査・技術指導・ 微生物製剤・資材の販売及び環境 対策技術の販売・指導 等 |

－沖縄栽培水産株式会社－

| | |
|------|---|
| 代表者 | 代表取締役 尾崎健一 |
| 本社 | 〒907-1801 沖縄県八重山郡与那国町与那国 3536 電話 0980-87-3183 |
| 事業内容 | 車海老の生産・販売・加工 |

－福吉総合実験場－

| | |
|------|------------------------------|
| 所在地 | 福岡県糸島市二丈福井 |
| 事業内容 | 海老類・甲殻類における養殖技術の 総合的な研究開発 |

2023年2月現在

ニッポンの粹
車海老

株式会社 拓水
www.takusui-group.com

最高の環境を整えることで、
最上の車海老を育てます。

[養殖への取り組み]

車海老の養殖は、毎年4月の採卵から始まります。稚海老になるまで種苗槽で約1ヶ月間飼育し、体長が15mm程度に成長すると養成池へ放養します。7月頃になると体重が20gに成長し、2月上旬まで出荷シーズンが続きます。養殖池に仕掛けた網を毎日水揚げし、サイズごとに選別して市場へ出荷します。拓水と関連グループ全体では1年間に150トン以上の車海老を出荷。シーズンが終わると養殖池の水を抜き、次の養殖にむけて池のコンディションを整えます。長期間日光にさらし、耕耘機で砂床を耕し、水を作り、育てることで最高の養殖環境を維持しています。



育てた車海老に、新たな鮮度を
加えて皆様にお届けします。

[6次産業化へのチャレンジ]

車海老の養殖（1次産業）から加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）まで展開し、養殖業の6次産業（1×2×3次産業）化にチャレンジしています。その成果のひとつとして従来の活きた状態での流通だけでなく、活きメ高品質（プロトン）冷凍車海老の商品化に成功。この流通改革により鮮度の極めて高い車海老を、全国各地にお届けすることが可能となりました。さらに車海老を調理する工程の一部を担えるような、加工処理システムの充実に取り組んでいます。

日本の車海老養殖は、1960年代から商業ベースでの取り組みが始まりました。当社の創業期から参画。半世紀に渡ってその草創期から参画。半世紀に渡って養殖技術の発展に尽力してきました。生産現場では現在も、より良質な車海老を生産するために日々励んでいます。

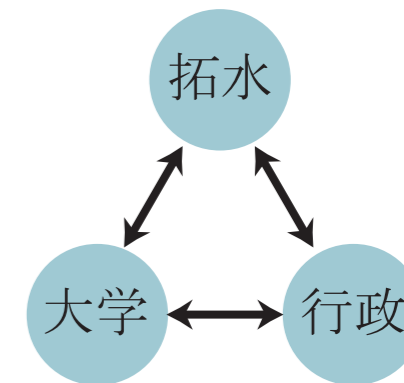
お届けするため。

最高の車海老を



車海老養殖の将来を見据えて、
研究開発に取り組んでいます。

[産官学連携による技術革新]

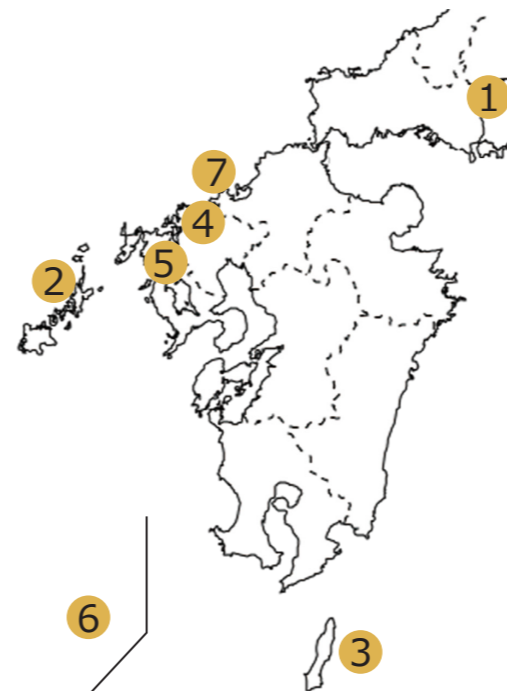


環境・飼料・飼育など、車海老の養殖にはまだまだ取り組むべきことが多数あります。解決のためには養殖技術だけでなく、多方面の専門技術が必要です。産官学連携によって、技術革新に積極的に取り組んでいます。また海外の養殖事情に常に注目し、実践的な経験も重ねています。

海を起点に広がる拓水ネットワーク。

[拓水と関連グループ]

「社員の幸せを通して社会貢献をする」という理念のもと、拓水グループは地道に研鑽します。



① 山口・周防大島事業場

山口県大島郡周防大島町小松開作 202
山口県東部の瀬戸内海に浮かぶ周防大島、その北西の海岸部にある大規模な養殖場

② 長崎・五島事業場

長崎県五島市蔵町 146-3
五島列島の久賀島内、中央まで深く入り込んだ海岸にある養殖場

③ 鹿児島・種子島事業場

鹿児島県西之表市安納 656
黒潮が流れ日本と外国の海が同時に味わえる種子島の安納にある養殖場

④ 佐賀・浜崎クルマエビセンター

佐賀県唐津市浜玉町瀬上 904
日本三大松原として有名な「虹ノ松原」を見渡す立地の養殖場

⑤ 佐賀・伊万里クルマエビセンター

佐賀県伊万里市波多津町煤屋 2420
複雑に入り組んだ伊万里湾の、自然の入江を利用した養殖場

⑥ 沖縄栽培水産 株式会社

沖縄県八重山郡与那国町与那国 3536
日本の最西端、沖縄の与那国島にある養殖場

⑦ 福吉総合実験場

福岡県糸島市二丈福井 クルマエビ中間育成施設
海老類・甲殻類における養殖技術の総合的な研究開発

